

第3章 教材の責任範囲を明らかにする～出入口の話～

2003年3月29日 ふくだまりんこう 宮崎議弘

1. 教材の責任範囲（出口と入口）

- 完全習得学習（マスタリーラーニング）

何ができれば「完全習得」したと認められて次に進めるのか。

そのゴールに向かってそれぞれの子どもたちは今どのあたりに位置しているのか。

- 学習目標

学習者に身につけてもらいたい、知ってもらいたい、できるようになってもらいたいことが具体的な形で表されたもの。

それが身についたかどうか判断できるように書かれている。

2. テストの種類と役割

- 事後テスト

勉強した結果として教えたいと思ったことが実際に身についたかどうかをチェックする。「完全習得」といえるかどうかを判断するため。

- 事前テスト

勉強する前にすでに身につけている(学習目標に達している)かどうかをチェックする。学習する必要がある人かどうか判断するため。「できすぎる人を排除する」。

- 前提テスト

事前に学んでおいてほしいこと、持っておいてほしい基礎知識が身についているかどうかをチェックする＝前提条件、資格。「できなすぎる人を排除する」
準備不足の人に無理をさせないため。

教材の責任範囲を明らかにし、「前提条件さえ満たせば必ず学習目標をクリアできるように支援する」と宣言する。

3. 学習目標の明確化

学習目標を誰にでもはっきり伝わるようにすること。

学習者の立場に立って誰に何を教えるのかを明確にする。

- 学習者の行動で目標を表す

学習者に何かをやらせて推測するときに「何をやらせるのか」をそのまま書いたもの＝
目標行動→学習目標

- 目標が評価される条件を示す

e.g. 持ち込み可／持ち込み不可，電卓を使って／使わないで

- 学習目標に対する合格の基準を示す

合格の基準をあらかじめ学習目標に示しておくことで，どの程度の正確さやスムーズさまでを要求しているのかが明らかになる

e.g. 正解率，制限時間，正確さの尺度